

## まつり創りで町づくり

団体名 白糠漁業協同組合青年部  
発表者名 葛西 光仁 (37才)  
指導所名 釧路西部地区水産技術普及指導所

### 1 地域の概要

私達が住む白糠町は北海道の東部に位置し、漁業を基幹産業とする人口1万2千人の町である。江戸時代の初期に拓かれた北海道でも歴史の古い町で、明治時代には日本三大馬産地として栄えた。現在も伝統芸能として若駒育成を表現する駒踊りが残っている(図1)。

### 2 漁業の概要

白糠漁業協同組合は組合員数139名で構成され、サケ定置網、タコ空釣、シシャモ桁曳などの漁船漁業主体で、特にヤナギダコは「たこ組合」と言われるほど道内有数の産地である。平成10年の漁業総生産は数量4,056t、金額15億7千万円だった(図2)。

### 3 研究グループの組織及び運営

当青年部は昭和24年に結成され昨年50周年を迎えた。現在部員数25名で、部費と漁協の助成及び町の補助で運営している。主な活動は港 in 白糠大漁まつりの主催、カキ養殖試験事業の実施、地元青年団体との連携などである。

昨年で第3回を迎えた大漁まつりでは、青年部自ら主催者として実行委員会を組織し、運営を行っている(図3)。

### 4 研究・実践活動課題選定の動機

白糠町は小型サケマス漁業で栄えてきたが、二百海里の施行で壊滅的な打撃を受け、浜のみならず町までも活気を失っていた。当時青年部ではイベントや養殖の自主活動を行いながらも地域興しに何か出来ないものかと模索していた。

そんなある日、商工会の部員から「沖から町を見てるなんて、お前ら毎日良いモン見てるなあ。」と言われ衝撃を感じた。

「俺達には当たり前前の事をみんなは知らないんだ。一体町の方は、漁業や自分達をどう思ってるんだろう。」

そこで平成8年3月、“マリンフォーラム'96 港～く in 白糠”を開催し、町の漁業と漁港のあり方をテーマに異業者を招待したシンポジウムや、遊覧航海、魚介類の販売を行った。約300人が参加したこのフォーラムの成功で、人々が漁業や海に関心を持っていることが分かった。また部員が当日の運営に忙しくシンポジウムを聞けなかったり、前売り制で入場者を制限したのが心残りだったこともあり、今度は誰もが参加でき、漁協青年部ならではの港を利用した新しいまつりを開催することにした。

この単なるイベントへの参加ではなく、青年部自ら地域興しのためにまつりを創っていた今日までの取り組みを紹介する。

## 5 研究・実践活動状況及び効果

### 企画と準備

私達はフォーラムの成功で、自分達にも何かが出来るという手応えを感じていた。しかし本格的なまつりを主催するのは初めてだったため、かねてから連携を持つ商工や農協等の青年団体から多くのアドバイスと協力を得た。また、役場や支庁が親身に私達の相談に乗ってくれて、地域振興奨励補助金など資金面でも補助を受けることができた(図4)。

通常、このような地域のまつりは特産物が旬の時期に開催するものだが、私達は地元を主体に考え、日程を町内行事や近隣のイベントと重ならない6月上旬の日曜日に決めた。まつりの名称は一般公募で“港 in 白糠大漁まつり”と決定し、本格的な活動を開始した。

まつりのテーマの一つは「港町の良さの再確認」であった。そこで沖から町を見れるとフォーラムで好評だった遊覧航海をまつりでも催し物の目玉にした。漁船での遊覧は保険や新たな船上設備が必要で実現が難しいものだが、白糠には現在部員数50名の遊漁部会があり、この部員の協力が遊覧航海を可能にした。また会場には自分達の漁業を知ってもらおうと漁法を示したパネルや普段使う漁具を展示することにした。

もう一つのテーマは「地域交流の場としての港」ということで、港を利用して多くの人を楽しめるステージイベント、海産物販売、海鮮炉端を行うことにした。しかし漁閑期に入る6月は地元で海産物を揃えるのが困難だった。そこで2月の全道青年部大会で各地の特産品の提供をお願いしたところ、苫前漁協と根室漁協の青年部から協力を得ることができた。

漁が終わってからの僅かな時間を利用して集まった青年部員は企画書の作成から、海上保安部や保健所への許可申請、ごみ収集車や仮設トイレの手配、設営器材の準備など、主催者ならではの細かな作業の連続に四苦八苦した(表1)。

### 開催と改善

平成9年6月8日、フォーラムから1年半の準備期間を置いて、遂に第1回大漁まつりが開催された。「準備は万全を期したつもりだけれど、本当にこれで大丈夫だろうか。文句ばかり出るんじゃないだろうか。」という不安があったが、会場となった白糠漁港エプロン広場(図5)には3千人近い人々が押し寄せ大変な盛況振りだった。そして予想外の来場者に品切れになった物を買いに走るなど、部員一同てんてこ舞いの一日になった。不思議なことに参加者からのクレームは一つもなく、来年もぜひやってほしいという声ばかりで、私達も消費者と直に触れ合う喜びや販売の楽しさを感じた。また遊覧航海に町内の小学生を招待したところ、お礼と喜びの手紙が青年部に届き次回への励みとなった。

しかしながら第1回の終了後に行った青年部の反省会では、会場の仕切が悪い、ゴミの分別ができていない等の当日になって初めて分かる事が沢山あった(表2)。

そこで10年6月28日に開いた第2回では高校生ボランティアの協力で会場のゴミ分別指導を行う等の対策を講じた。また、物足りなかったステージイベントには、小学校のブラスバンドや地元よさこいチームに参加を依頼した。

11年6月27日に開催した第3回では、青年部はあくまで地域興しを目指すため炉端の経営から一歩退き、漁協や組合員にも出店を募って浜に経済効果を及ぼすようにした。ま

た、遊覧航海が毎年 500 人を越える人気なので、これに加えて釣竿を貸し出す体験遊漁を企画した。当日は子供から大人まで 180 名が乗船し、30 分の間にアイナメやカレイ等を次々と釣り上げ好評を博した（表 3）。この時は小雨が降る悪条件の中、2 千人の人々が訪れてくれた。

こうして運営体制の強化と催し物の充実を図ることで大漁まつりは白糠巖島神社例大祭、白糠町南通り商店街青年部主催のカミングパラダイスに並ぶ町の一大イベントと言われるようになった。

### アンケート調査結果

私達で作ったこのまつりが、地域興しに成果を上げているのか、これで良いものかと考え、まつりの方向性を検討しようと、役場と水産技術普及指導所の協力で調査を行った。

第 1 回大漁まつりで行った聞き取り調査では、漁業関係者から「港にも交流の場ができた」「町を盛り上げたい浜の気持ちを伝えられた」等の他、港の利用法に感心する意見が聞かれた。町民からは「白糠自慢のまつりに成長してほしい」「まつりのない寂しさを青年部が感じ取ってくれて嬉しい」等の声を聞くことが出来た。

第 3 回ではアンケートを実施し 208 人から以下の解答を得た（図 6）。

#### 来場者について

解答者の 4 割が町外の人で、まつりが交流の場としての役割を果たしてきている。ただし町内のリピーターが 65%に対し町外は 15%に留まり、宣伝はまだまだ足りないと思われた。

#### 遊覧航海の感想について

町外からは「遊覧が面白かった、景色が美しかった」という客観的な感想が殆どだった。町内はそれらに加え「でかい町だ、我ながら素晴らしい町だ」など沖からの眺めに驚き、町を見直す様子が伺えた。

#### 白糠のイメージについて

「漁業の町」という解答が町外からは 7 割だった。それに対し町内は 5 割に留まり、地域住民にとっては漁業の町というイメージだけではないことが判った。地域興しのまつりとしては、伝統芸能や町の歴史などの PR も盛り込むことが必要だと感じられた。

## 6 波及効果

まつりを主催することで部員が地域を担う自覚と自信を持ち、青年部の活性化につながった。また、部会や組合員がまつりに参加することで、積極的に消費者と接する機会ができた。更に、まつりを機に組合直売店が開設され、漁業者のものと思われがちな港を開放することで人々が港町白糠を再認識してくれたものと思う。

地域への波及効果としては、地元サークルや学校に活動の場を提供したことで、町文化の見直しや新たな発見の場として期待される。

町全体へ浸透したまつりは、今では近隣市町村へその名が広がり、町の宣伝効果や集客による経済効果は着実に上がっている。

## 7 今後の計画と問題点

今後も当面は大漁まつりを青年部のメイン事業として継続し、定着化させていく計画である。

問題点としては、今年度で地域振興奨励補助金が終了したことによる資金不足、人手不足やマンネリ化の防止などがあり、まつりの本当の意味での成功はこれからの活動にかかっていると考えている。

「まつりを創ること、参加することの楽しさをみんなに感じてほしい。そうすれば、必ず新しいものが生まれ、それが町や港・産業の活性化につながる。」という私達の想いを伝え、町の期待に応えるべくこれからも日々努力していきたい。

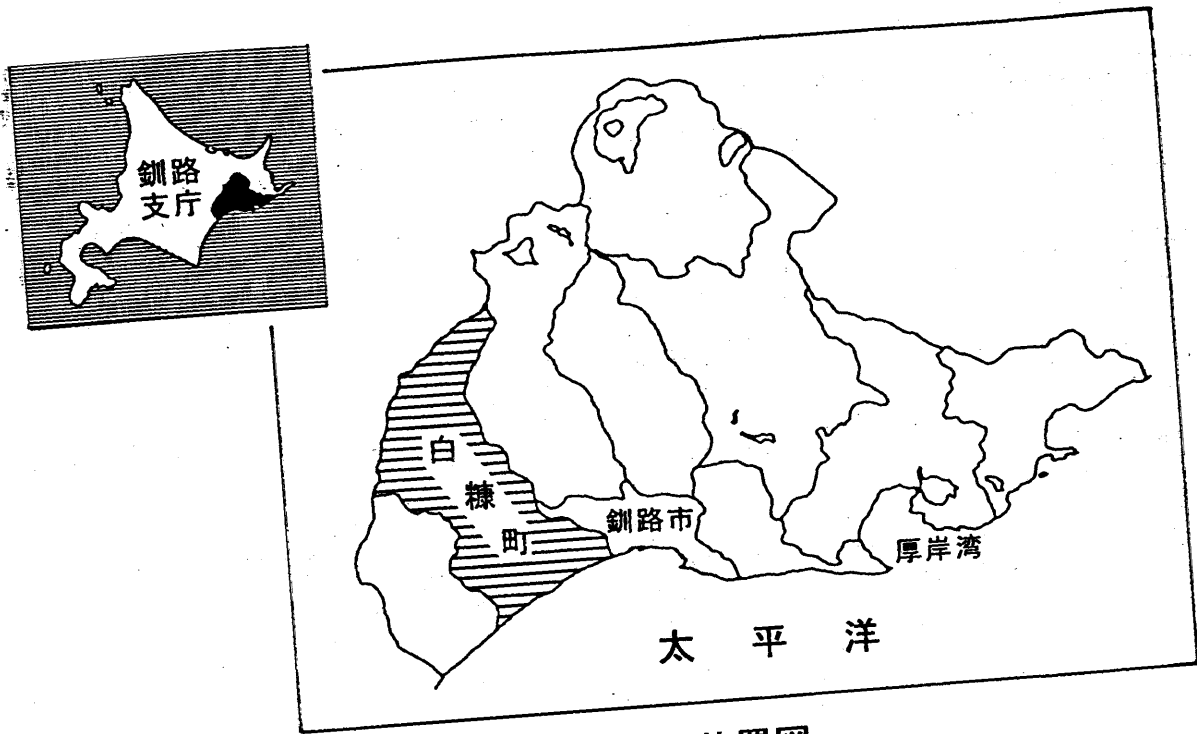


図1 地域の位置図

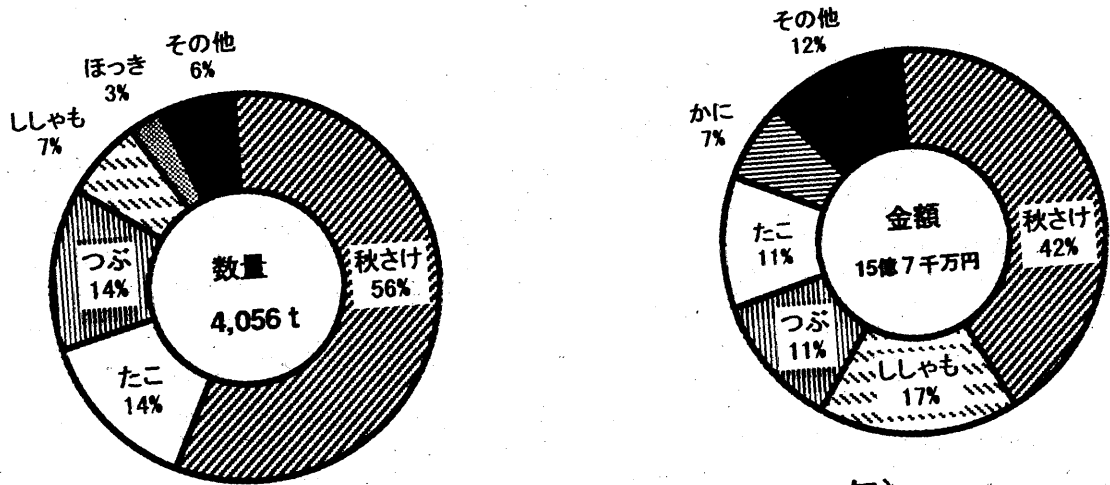


図2 主要魚種別生産高(平成10年)

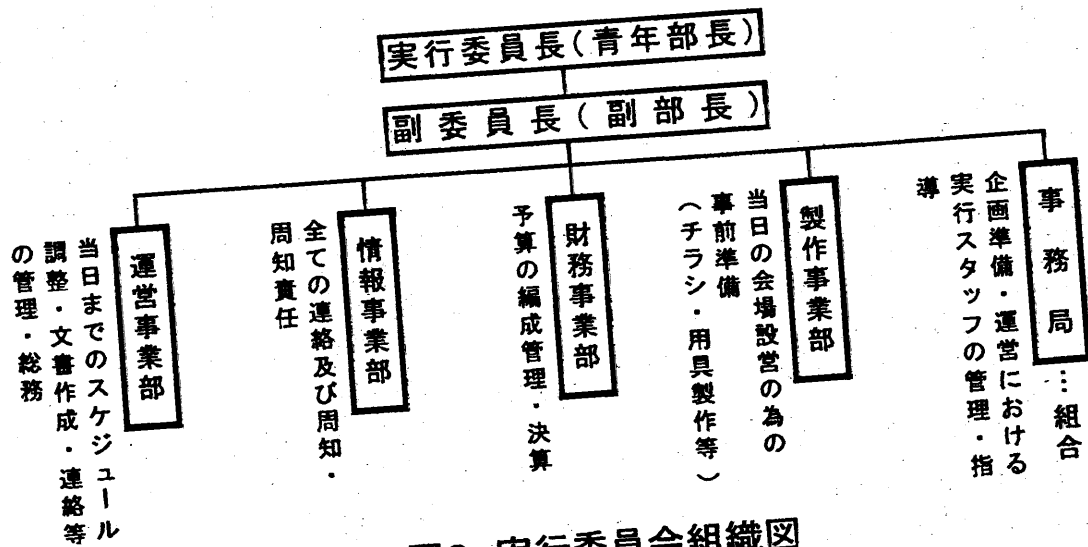


図3 実行委員会組織図

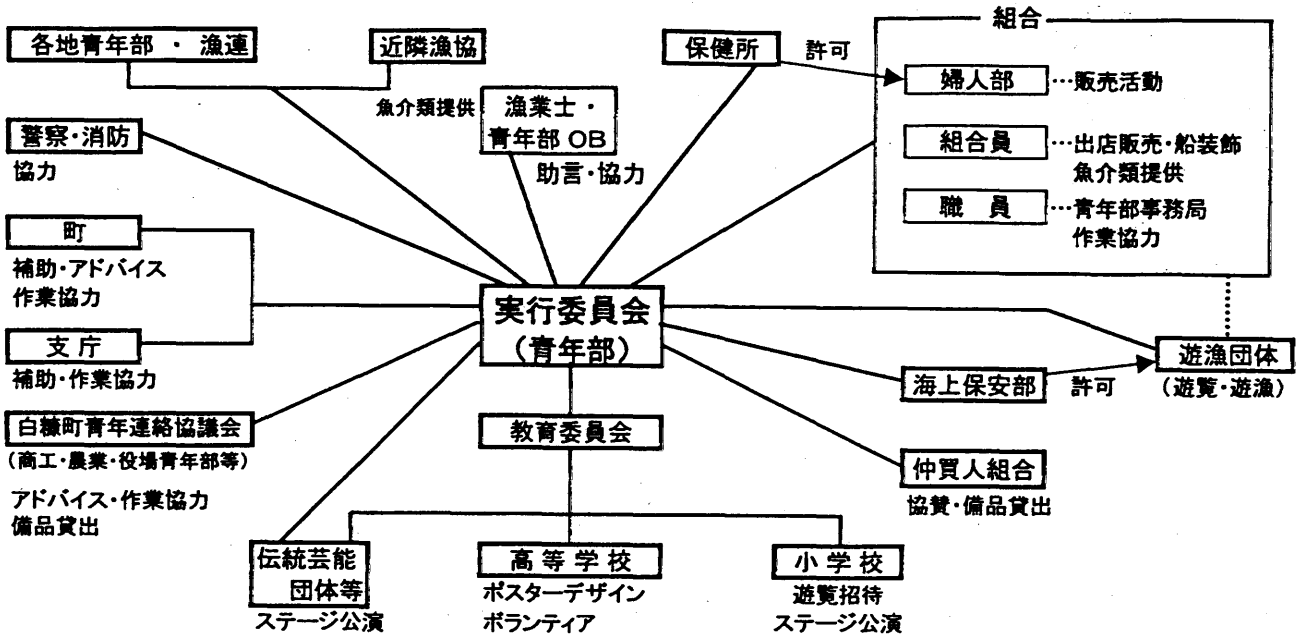


図4 実行委員会と関係組織

表1 第1回港in白糠大漁まつり開催までのタイムテーブル

日付	内容	日付	内容
H8 3月	マリンフォーラム終了	5月13日	青年部OBに協力依頼
H8	組合前、エプロン広場の舗装始まる	5月15日	役員会:進捗状況他確認
11月	役員により企画原案決定	5月16日	ポスター完成
	町内各青年部団体等へ協力要請	5月19日	のぼり作成
H9 2月	全道青年部大会で販売品の提供依頼		苫前漁協青年部からホタテ200kg 運送手配
	4月1日	実行委員会正式発足	根室市漁協青年部からコマイ45袋
4月12日	まつりの名前を一般に公募	5月21日	釧路新聞より取材
	運動会の日程を聞く	5月24日	大漁旗集め開始
4月17日	青年部役員的意思確認	5月27日	釧路新聞より取材
4月20日	企画書提出(町)後援依頼		保健所へ営業許可申請
4月23日	まつりの名前「港in白糠大漁まつり」に決定		ポスター掲示場所決定
4月28日	近隣漁協の6月の漁獲物の状況について確認		ガスバーナー2個購入
4月29日	たこ縄部会よりタコ賛助決定	5月28日	漁具展示準備
4月30日	浦須内に発電機手配		準備手伝いの人に保険をかける
5月6日	企画書提出(支庁)		当日の具体的な動きの打ち合わせ
5月7日	遊覧航行使用船舶決定		来賓へ臨席依頼
5月7日	手をつなぐ親の会販売品目決定		ゴミ収集車出動依頼
5月7日	ホッキ部会よりホッキの賛助決定		保健所より魚介類販売許可がおりる
5月7日	農協青年部より牛乳の賛助決定、当日の作業手伝いは厳しい状況		釧路駅にポスター貼る許可問い合わせ
5月7日	発電機に会場内配線依頼	5月31日	組合員に当日の駐車係と船体装飾依頼
5月8日	焼きそばの焼き台の値段確認	6月1日	町広報紙へ広告
5月8日	秋本さんに司会依頼	6月2日	交通安全指導員の派遣依頼
5月8日	駒太鼓出演決定		遊覧航行用救命胴衣手配
5月9日	青年部会議:人員配置決定		消防・警察へ協力依頼
5月9日	シシャモ部会よりシシャモの賛助決定	6月3日	海保へ遊覧航行届出
5月12日	3時集合 看板作成	6月5日	仮設トイレ契約
5月12日	仲買組合・商工会へ大テント貸出依頼	6月6日	チラシ完成・折込広告
5月13日	小学校プラスバンド出演決定		会場に大漁旗設置・会場清掃
5月13日	楽器の運搬用にトラック手配		スタッフ弁当手配
5月13日	祝賀企画に放送器材手配	6月7日	18時ウイング車着
			13時テント搬入
		6月8日	大漁まつり開催

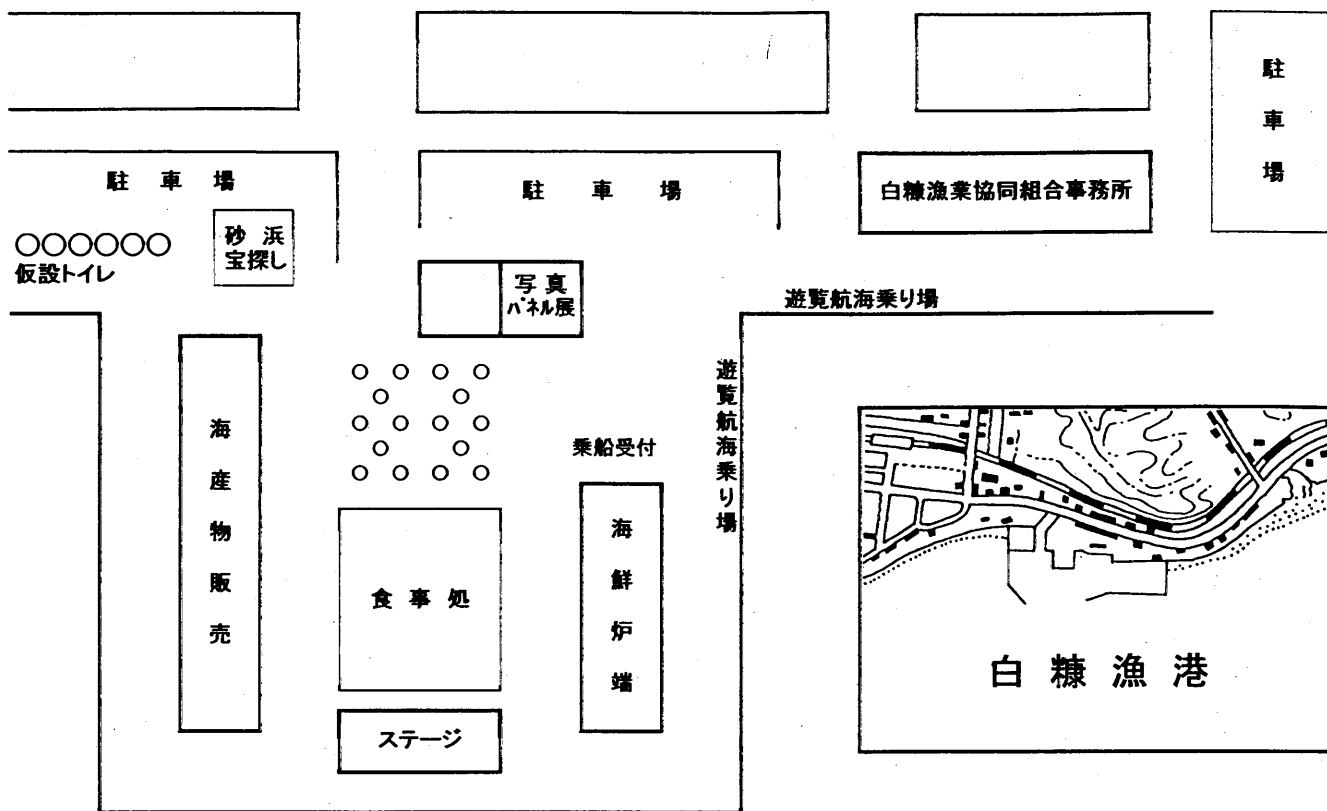


図5 会場模式図

表2 問題点とその対策

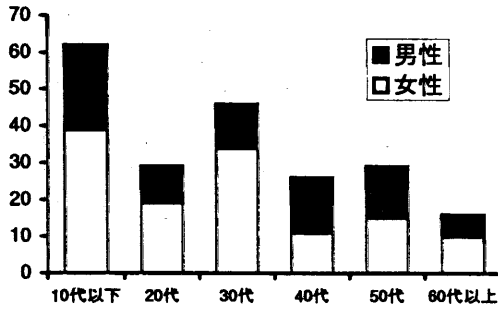
	問題点	対策
1 回 目	人員をはりつけた結果、自由に動ける者がなく連絡伝達が混乱し、一時スタッフがパニックになった。	ヘッドホン型無線機をスタッフに配布した。
	ゴミ箱の数が足りなかった。	数を増やすと共に高校生ボランティアに収集・分別の協力を依頼した。
	せっかく用意したステージを、あまり使わなかった。	よさこいチームや伝統芸能団体等に出場を依頼しイベントの充実を図った。
2 回 目	全道の海産物も良いが、地元根ざすのなら、まず近郊のものに目を向けてPRするべきではないか？	近隣の漁協に呼びかけ、5単協から各地の海産物を原価で提供してもらった。
	好評な遊覧航海をもっとおもしろくできないのか？	体験遊漁を実施することになった。
	地域活性化のためには、販売部門の改良が必要ではないか？	各部会から販売部門への参画を呼びかけ、組合員あがりのまつりにしていくと共に、浜にも経済効果があがるようにした。

表3 第3回目の催し物一覧

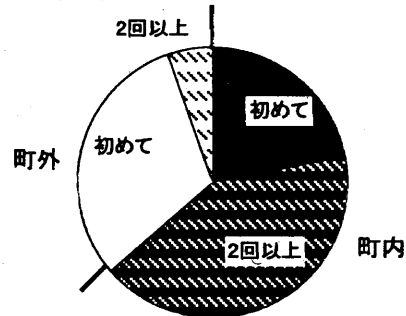
項目	内容	担当等
魚介類販売	カキ・ツブ等焼き物	青年部
	サケ丼・鉄砲汁・焼きそば	婦人部
	鮮魚販売	漁協
	写真・パッチ	商工青年部
	ザリガニ釣り・金魚すくい	役場
	わたあめ・クッキー・かき氷	手をつなぐ親の会
	海鮮炉端	77部会・シヤモ部会
	イカ焼き・焼き肉等	組合員
	ザンギ・鳥串・ビール	組合員
展示	白糠の漁業の歴史パネル ホッキ桁網、等漁具	青年部
遊覧航海	遊覧航海 (5隻) 503名参加	青年部及び フィッシングクラブ
	体験遊漁 (3隻) 180名参加	

項目	内容	出演等
ステージイベント	白糠駒太鼓	しらぬか駒太鼓
	伝統舞踊	白糠アイヌ文化保存会
	金管バンド	白糠小学校
	バンド演奏	M.P.C.
	よさこいソーラン	そりゃ!! 阿寒
		華恋会
		華恋会 Jr.
	白糠若駒そーらん隊	
	カラオケ	来場者
	ビンゴゲーム	青年部
	アイナメ掴み捕り	青年部
	牛乳無料配布	農協青年部

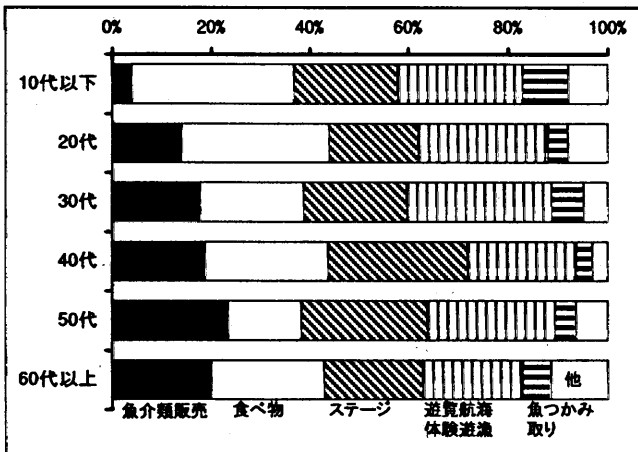
Q.年齢と性別構成について



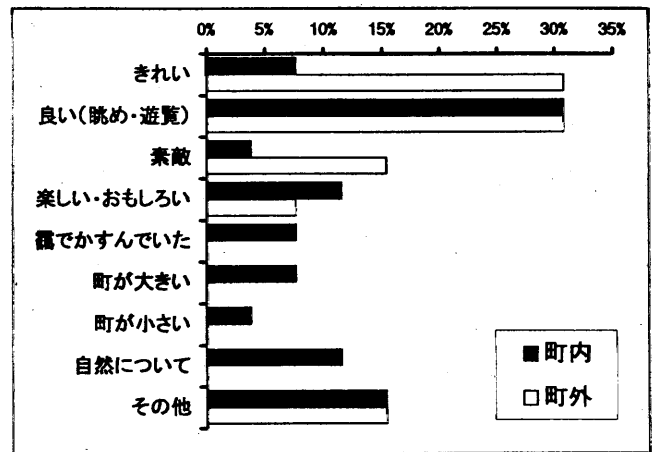
Q.在住地と来場回数について



Q.良かったイベントについて



Q.遊覧航海の感想



Q.白糠町のイメージについて

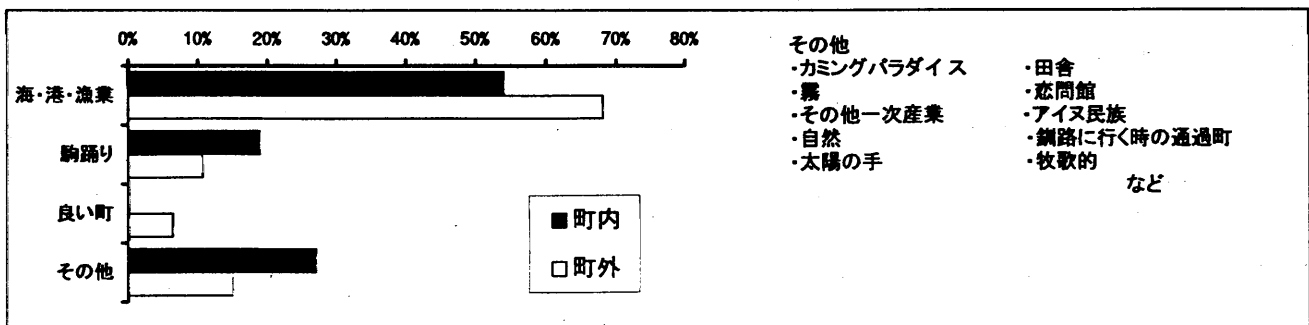


図6 アンケート調査



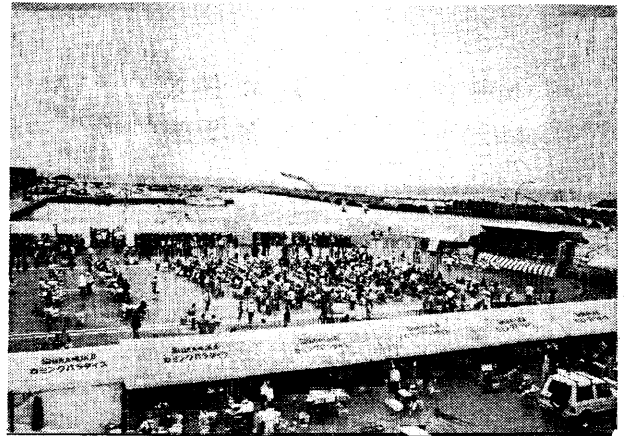
ポスター (第3回)  
毎年白糠高校美術部に作成を依頼している。力作揃い。



ステージ  
ウイングトラックを使った即席舞  
台も大漁旗で立派なステージに。



漁具展示・パネル展  
「いつも食ってる魚はこれで捕ってるのか」



白糠漁協エプロン広場  
テントはカミングパラダイスや仲  
買人組合からの借り物。



遊覧航海  
初めて見る町の姿に歓声上がる。  
「私の家見つけた!」という子供達も。



白糠漁協エプロン広場  
ヤナギダコ・カキ・ツブ etc.. 海  
産物が並ぶ。